

ありがとう

豊かな自然に恵まれたふるさと御祓

仲間の明るい声が郷音き渡った

思い出の校舎

いつもあたたかく見守ってくださった

地いきのみなさん

きょうたいのように

仲よくしてきた友だち

1880人で137年の歴史を築いてきた
御祓小学校

いつまでも
忘れない

内子町立御祓小学校

児童一同

平成26年3月23日

特集

閉校「ありがとう、いつまでも忘れない」

御祓小学校の閉校式の様子。児童全員で制作した縦4羽、横6羽の書道作品が披露されました。



1_毎年みんなで歩いた棚田への道 2_雲海を背景に「ふるさとCM大賞」応募作品の撮影 3_運動会で一輪車の上達ぶりを披露
閉校記念碑の前で記念撮影 →



御祓小学校

ありがとう、いつまでも忘れない

美しい景色と地域の愛情に包まれ、育った子どもたち
御祓小学校の思い出と地域への感謝の気持ちを胸に刻み、巣立ちます——。

ありがとう御祓小学校

インタビュー-03



閉校準備委員会
委員長

上岡 豊秋さん(67) =谷=

3世代で関わった閉校式

親子と孫の3世代が御祓小学校の卒業生で、一緒に閉校式に関わることができました。自分たちも小学生の頃に稲作体験は、御祓地区を支える農業を体感し、地域の人たちと親睦を深める大切な行事だったと思います。

地域と深いつながりのある学校がなくなること、過疎化と高齢化が進むのではないかと不安と寂しさを感じます。3世代が通った学校なので、閉校は残念です。

インタビュー-02



PTA会長

上岡 豊和さん(35) =谷=

継がれてきた一輪車の伝統

子供の将来を考えたら統合することは仕方ないと思いますが、母校がなくなることは悲しいです。一輪車の演技を運動会で行うことが、昔から受け継がれてきた御祓小学校の伝統です。乗れるまで、転んでも転んでも必死に一輪車に挑戦する姿を見ると、親として感激します。統合することで一輪車の伝統もなくなりますが、子どもたちには御祓小の伝統を誇りに頑張ってほしいです。

インタビュー-01



児童代表

上岡 豊季くん(12) =谷=

思い出いっぱいの御祓小学校

御祓小学校での思い出は、いっぱいあります。中でも棚田の稲作体験はとても楽しかったです。地域の人たちのお陰で、さまざまな経験ができました。本当にありがとうございます。楽しい思い出が詰まった母校なので、閉校になることは悲しいです。後輩たちには天神小学校に行ってもチーム御祓を忘れずに、仲良く楽しい学校生活を送ってほしいです。僕も中学校で頑張ります。

豊かな自然に囲まれた小学校
御祓小学校(津國巳代子校長、児童13人)は明治10年に瓊敷小学校と聚星小学校として創立しました。豊かな自然に囲まれた学校で、日本の棚田百選に選ばれた泉谷の棚田が近くにあり。毎年、その棚田で昔ながらの米作りを地域の人たちと一緒にやってきました。美しい風景と地域の人たちの愛情に包まれ、多くの人材を育み、これまで1860人の卒業生を送り出しました。

「ありがとう」を伝えたい
同校の閉校記念式典は3月23日に行われ、児童や教職員、保護者、地元住民など約220人が参加しました。式典では津國校長が「御祓地区の自然と人情が子どもたちの感性と思いやる気持ちを豊かに成長させてくれました。校訓の『まこと』の精神を胸に刻んで、力強く歩んでください」とあいさつ。続いて全校児童が、学校の思い出を写真と詩で発表しました。その後、会場後方の縦4段、横6段の幕が下ろされ、「ありがとう、いつまでも忘れない」という気持ちをこめた書道作品が披露されました。子どもたちの思いが詰まった大きな作品に、参加者から感嘆の声が上がっていました。式典最後に津國校長から内子町役場総務課西澤美男課長へ校旗が返納され、全員で校歌を斉唱。式終了後、閉校記念碑の除幕が行われ、参加者全員で137年に及ぶ校史の終わりを見届けました。

天神小学校からのメッセージ

たくさん友達を作って、互いに高め合ってほしい

25年度天神小学校
大宇根秀夫校長(57)



御祓小学校と統合されることで、互いにとって人間関係が広がり、今まで以上の経験を積むことができると思います。複式学級で授業をしてきた御祓小学校の子どもたちにとって、大人数が勉強することに戸惑うかもしれません。一緒に学習していけば適応できると思いますので、今までと同じ気持ちで学校生活を送ってほしいです。天神小学校の子どもたちは新たに友達が増えることで互いに高め合うことができますし、御祓地区との交流ができるようになります。この新しい風が入ってくることは天神小学校にとってうれしいことです。4月から一緒に頑張ります。

学年の違う子どもたちとも仲良くなりたい

岡田 周くん(11)
=西沖=



天神小学校では全校生徒を班に分けて一緒に学んだり、遊んだりする「太陽の子グループ」があります。だから違う学年の子どもたちとも仲良しです。一緒に活動して、御祓小学校から来るみんなとも仲良くなればいいですね。僕は御祓地区のことを知らないで、棚田の体験のことなど、たくさん教えてほしいです。大人数なので初めて会う子どもも多いと思いますが、一緒に学校生活を楽しんで友達になりましょう。



1_御祓小での思い出を大きな声で発表した「児童の言葉」 2_津國校長から西澤総務課長へ校旗が返納された 3_恩師たちも駆け付け、児童の会話も弾む 4_3月21日に卒業証書授与式が行われ、3人が卒業証書を受け取った 5_御祓小学校に関する資料が保管されている「まこと館」 6_津國校長による学校長式辞

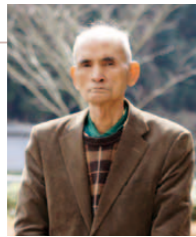


1_閉校記念碑を囲んで 2_「参川おやじおふくろの会」主催の川遊び 3_地域の祭りなどに学校で参加するなど、地域とのつながりを大切にしている参川小学校 4_第3888号の卒業証書を手にする中村真衣さん 5_校旗を返納する永居泰成くん 6_多くの人が母校との別れを惜しんだ 7_閉校記念碑の除幕 8_閉校記念ソングを歌う佐藤昂時さんと児童たち



ありがとう参川小学校

インタビュー-06



閉校準備委員会
委員長
門田 求 さん(72) =上川西=

「参川」を忘れないで

学校は地域の伝統や歴史が詰まった、地域を象徴する施設です。昔から互い支え合いながら活動してきました。地域内での交流の機会も減ると思うと寂しいです。「参川」は地域名や自治会名に使われていません。学校がなくなることによって「参川」が忘れられるのではと不安に感じています。住民みんなが参川を語り継いでいかないといけないと思います。

インタビュー-05



PTA会長
山本勝利さん(47) =上川中=

最後の1年間で思い出づくり

児童数が少なくなってきて、体育などの授業に人が不足していると感じていました。統合することで友達が増え、お互いを高め合うきっかけになってほしいです。保護者を中心に「参川おやじおふくろの会」を立ち上げて、この1年間子どもたちと一緒に活動してきました。参川小学校最後の年に子どもたちと一緒に思い出をつくれうれしかったです。

インタビュー-04



児童代表
高本達也くん(11) =中川西=

参川小学校で卒業したかった

保護者の人たちが「参川おやじおふくろの会」を作って、稲作体験や川遊びなどで自分たちを楽しませてくれました。また児童全員で遊ぶ「全校ゲーム」はとても面白かったのですが、統合後はできないと考えると悲しいです。参川小学校が大好きなので、参川小学校で卒業したかったです。小田小学校ではたくさん友達をつくって、みんなで楽しく遊びたいです。



「小さな 瞳の森さんかわ」と刻まれた記念碑の前で

参川幼稚園も一緒に閉園
参川小学校と同じ敷地で59年の間、幼児教育を行ってきた「参川幼稚園」(松岡誠一郎園長・園児9人)は参川小学校と同日に閉園しました。
閉校式では幼稚園の園歌を小学生と一緒に大きな声で斉唱し、会場から拍手が起こっていました。また小学校同様、幼稚園にも閉園記念碑が作られ、参加者が見守る中、除幕が行われました。4月からは小田小・中学校横に新園舎が建設された「小田幼稚園」に統合されます。

「夢」「出逢い」「笑顔」ありがとう 参川小学校

創立140年の歴史の中で、3,888人の卒業生を送り出してきた参川小学校。学校への感謝の思いを閉校記念ソングに――。

式辞を述べる松岡誠一郎校長



140年の歴史に幕
小田川の上流部に位置する参川小学校(松岡誠一郎校長、児童26人)は明治7年に創立。今生学校、有鄰学校、開成学校として開校した歴史ある学校です。校訓は「進んで学ぶ子が 明るい子/みんな伸びる子 やさしい子」。学校で学ぶことと素晴らしい人に成長してほしいという意味が込められています。
閉校記念ソングを作成
参川小学校・幼稚園の閉校式は3月23日に開かれました。児童や教職員、地元住民など約200人が見守る中、140年の歴史に幕を閉じました。
式では松岡校長が「参川小学校と幼稚園があったことを忘れられないように、

学校と幼稚園でつくった思い出をたくさんの人に語り継いでください。新たな学校に行っても、地域の人たちに笑顔であいさつを心がけ、参川地区を元気にしてください」とあいさつしました。参加者が見守る中、永居泰成くんから稲田繁副町長へ校旗が返納されました。その後、校歌を出席者全員で斉唱。参川小学校での思い出を振り返りながら、最後の校歌を歌いました。式典終了後、松山市在住の佐藤昂時さんが子どもたちと協力して作曲した閉校記念ソング「ありがとうさようならさんかわ」などを歌うミニライブが開かれました。同小学校や地域への感謝を詩にまとめた曲で、佐藤さんと子どもたちは、地域や学校への気持ちを込めながら歌い、閉校に華を添えました。続いて閉校記念碑の除幕式が開かれました。小田太鼓集団「喜鼓里」による演奏の後、関係者による除幕が行われ、参加者から拍手や歓声が上がっていました。

一番小さな学校の一番元気な閉校式、ありがとう——。

田渡小学校

町内で最も児童数が少ない小学校。
子どもたちの地域や学校への感謝の気持ちが伝わる、温かな閉校式。



1_田渡小学校最後の児童となる9人。閉校記念碑の前で 2_地域の人たちと一緒に競い合った「運動会」 3_恒例のスキー教室。たくさん滑っているのでみんな上手です 4_稲作体験は苗作りから。地域の人たちや国際交流協会、大洲農業高校も一緒に参加する一大イベント

ありがとう田渡小学校

インタビュー 09



田渡小学校
教育後援会会長

上田忠典さん(66) =中田渡1=

子どもたちの未来に期待

以前から統廃合されるのではないかと話題になっていたのですが、大きな抵抗はなかったと感じました。ただ独居老人の家に子どもたちが訪問する活動などを行っていたので、閉校になり残念と言っていた地域の人が多かったです。小田小学校は生徒が多く新校舎になったので、良い環境で学習できると思います。競争しながら、素晴らしい人になってほしいです。



新しい校舎で待ってまーす

インタビュー 08



保護者代表

寺岡和一さん(47) =中田渡2=

農業の大変さを学べた

母校が無くなることは残念ですが、子どもたちの成長や将来を考えると仕方ないと思います。稲作体験では、子どもたちが苗や田の様子を毎日観察していました。農家が少なくなり農業を知らない子どもたちが増えているので、貴重な体験になったと思います。地域の人たちとの思い出や教えを胸に、新しい学校でも頑張ってください。

インタビュー 07



児童代表

福岡涼翔くん(11) =吉野川=

小田小学校で1番になりたい

田渡小学校では運動会やスキー教室などさまざまな思い出がありました。地域の皆さんが協力してくれて貴重な体験ができたと思うので、とても感謝しています。田渡小学校が閉校すると、地域の皆さんとの活動ができなくなり寂しいです。小田小学校に行ったらたくさんの子と友達になって、勉強とスポーツで1番になれるよう頑張りたいです。

今、旅立ちのとき

4月から御祓小学校は天神小学校に、参川、田渡の両校は小田小学校として新しいスタートを切ります。学校と地域が一つになって築いてきた伝統は、閉校式に参加した多くの人たちの胸に刻まれました。地域に愛された学校がなくなるのは寂しいことですが、地域から子どもたちがいなくなるわけはありません。その元気な姿は、地域のかげがえのない宝物です。これからも温かい気持ちで見守り、支えてあげてください。子どもたちは、地域の誇りと思い出を胸に、旅立ちます。

式辞を述べる井伊重昭校長



地域と学校に感謝をこめて
田渡小学校「閉校記念式」は3月23日に開かれました。児童や保護者、卒業生など約200人が参加し、

46年の歴史に幕を下ろしました。
式典の前に、閉校記念碑の除幕式が開かれ、参加者が見守る中、記念碑が披露されました。式典では最初に、最後の卒業生となる宮岡城介くん(11)に卒業証書が手渡されました。井伊校長の式辞では「新たな学校に行っても、夢と仲間、あきらめない心を大切に、田渡っ子として自信をもって頑張ってください」と子どもたちを応援しました。その後、校旗が井伊校長から稲本隆壽町長へ返納されました。式典終了後、全校児童による「ありがとう集会」が開かれ、児童による田渡っ子ソーランや俳句が披露されました。「べん強をすすんでする子春陽さす」(宮岡葉夢さん、同小2年)、「友だちを100人つくりたい春の風」(福岡省吾くん、同小3年)など、学校での思い出や新しい学校での決意などがこもった俳句が披露され、思い出が詰まった学校との別れを惜しんでいました。



1_閉校式の参加者全員で記念撮影 2_「ありがとう集会」では児童全員が、新天地での決意を俳句にして発表した 3_それぞれの思い出を胸に、最後の校歌を歌う 4_田渡っ子ソーランを踊る児童の元気な姿が、式典を盛り上げた 5_最後の卒業生となった宮岡城介君。閉校式を終えて晴れ晴れとした表情

